

豊栄病院 地域医療連携室だより 平成30年11月号

空から白鳥の鳴き声がします。「新潟観光ナビ」の見頃情報によると、瓢湖だけが◎で、他は△です。見に行こうか？ 今月も連携室だよりを届けます。



臨床検討会のお知らせ

日時:平成30年11月13日(火)午後6時
場所:豊栄病院 健診棟2階 多目的ホール
講演:緑内障に関する最近の話題 梶野哲哉先生
共催:豊栄病院、アルコンファーマ株式会社

●11月の臨床検討会は、眼科の梶野先生が話をしてくださいます。専門である緑内障に関するお話の他、留学のお話もされるかも。楽しみです(柄澤)。

●糖尿病性腎症と糖尿病性腎臓病(DKD)

糖尿病に特徴的な細小血管病変の一つが「糖尿病性腎症」です。罹病機関の長い糖尿病患者の約4割くらいに発症し20年くらいの経過で透析になります。現在新規透析導入疾患の第一位が糖尿病性腎症で、糖尿病性腎症の発症進展を抑制することが求められています。典型的な経過では、微量アルブミン尿が出てから尿蛋白が多くなりその後腎機能が急速に低下していきます。したがって早期発見はアルブミン尿を見つけることで、蛋白尿の減少を治療効果のマーカーとしていました。ところが、糖尿病の方で蛋白尿を伴わないのに、腎機能が低下している症例が多いことがわかってきました。UKPDS(UK Prospective Diabetes Study)では、28%の患者が中等度から高度の腎機能低下を示しましたが、その半分で微量アルブミン尿がありませんでした。DCCT(Diabetic Control and Complications Trial)でも、11%の1型糖尿病で

糸球体濾過量が60ml/min未満となりましたが、そのうち40%は蛋白尿がありませんでした。このため糖尿病性腎症以外の腎障害も含めて糖尿病性腎臓病(DKD)という概念ができました。糖尿病の方で、蛋白尿がなくとも、腎機能が低下している方は、是非一度御紹介をお願いいたします(菊地博、柄澤)

●多職種チームでの看取りの検討を再現します。

日時:平成30年11月6日(火)午後5時15分

場所:豊栄病院 健診棟5階 会議室

前回透析の患者さんでした。認知症が進行し寝たきりになり、透析低血圧などから透析の継続も困難になった方でした。透析の中断に関する議論がありました。今回は癌末期の患者さんの検討を再現します。是非参加を御検討ください。なお、検討会の内容に関しては、「Drキリコとブラックジャックの対話」という文書にまとめています。問い合わせや参加は地域医療連携室 天木まで(柄澤)。

●NST 勉強会

日時:平成30年11月15日(木)午後5時15分

場所:豊栄病院 健診棟2階 多目的ホール

テーマ:「経管栄養」について～排便コントロール、合併症(逆流、嘔吐、下痢、便秘)、絶食明けへの対処法、経腸栄養投与法(水先投与法など):ネスレ日本(株) 中山慶 先生:

前回も院外からの参加がありました。今回も面白いかも。院外から参加の方は地域医療連携室天木まで(小林真)。



編集:今年の病院祭・石動座公演は、最後の意思を確認するためなら未告知の末期癌患者に告知をしたほうが良いだろうか?というテーマで作りました。みんな、考えてくれたかな?センター長柄澤良